EOI essences of the issue

上肢の運動器疾患は，臨床において遭遇することが多く，しかも発症メカニズムは多彩であり関連する因子は単純ではない．本特集では，若年者のスポーツ障害と中高年者の上肢変性疾患の相違点を整理し，病態の違いによる理学療法の対応について解説した．

■若年者に多い上肢スポーツ障害の特徴―バイオメカニクスの点から（村木孝行論文）

若年者における非外傷性の上肢運動器疾患はスポーツ活動に起因するものが多い．上肢をしならせてボールを投げたり，打ったりする動作では肩関節や肘関節の大きな負荷が生じる．また，道具を使って打つ動作においては手関節に高速かつ大きな運動が要求されるため，適切な運動が行われないと受傷しやすくなる．また，これらのような運動の過剰な反復が障害発生の割合を高めることもあり，機能面，環境面など多角的な予防的介入が必要となる．

■上肢運動器変性疾患の病態と機能解剖における若年者と中高年者の特徴（青木光広論文）

欧米を中心としたスポーツ医学の進歩のなかで，バイオメカニクス的視点より上肢スポーツ障害の病態とその特徴が明らかにされている．本稿では，今後増加すると予測される成人から中高年者に発生する上肢運動器疾患の病態を，バイオメカニクスの視点とそれに関連する機能解剖より，他動運動を可能な限り忠実に再現した解剖標本画像を参照して解説する．

■肩峰下インピンジメント―若年者と中高年者の違い（上田泰之論文）

肩峰下インピンジメントは若年者から中高齢者まで広くみられる．その要因として，上腕骨頭の上方偏位，肩甲骨運動の減少，肩腱板腱端部・肩峰下滑液包の腫大，肩峰下面のアライメントが挙げられる．さらにその要因に影響する因子には，各年齢層に共通する点，特徴的な点があり，肩峰下インピンジメントの評価，治療にはこれらの知識を得たうえで，各症例に応じた詳細な評価を通し，その要因を突き止めることが重要である．

■上腕骨外側上顆炎―若年者と中高年者の違い（坂田　淳論文）

外側上顆炎は上肢を使用する職業においても，ラケットスポーツにおいても起こり得る．高齢者においては腱の退行変性がその背景にあり，短橈側手根伸筋付着部へのせん断ストレスなど多くの要因が関与する．一方，若年者においても一定数発生しており，その多くはスポーツ動作における短橈側手根伸筋付着部への牽引ストレスが要因となる．

■肘部管症候群と胸郭出口症候群―若年者と中高年者の違い（宇良田大悟論文）

肘部管症候群と胸郭出口症候群を治療するうえで，解剖と病態の把握は重要である．両疾患とも進行性の要素をもつ疾患であり，漫然と理学療法を続けると患者に不利益をもたらす危険性がある．本稿では，文献的考察を踏まえながら解剖・病態について概説するとともに，若年者，中高年者それぞれの特徴について述べる．